

日本音楽集団

邦楽と月夜の宴

伝統的な邦楽の流派を
 越えて集まった
 50年以上の歴史を誇る
 邦楽器の一流の演奏家集団。
 邦楽のイメージを
 一新するプログラムと至高の
 アンサンブルを奏でる。



【演目】 八木節
 日本の抒情歌・唱歌メドレー
 楽器紹介
 箏・尺八／「春の海」
 琵琶／「平家物語」
 三味線・笛・打楽器／「歌舞伎音楽」
 箏・笙／「越天楽～雅楽の調べ～」
 日本民謡メドレー
 「花」「お江戸日本橋」「ソーラン節」

※曲目および曲順は変更になる場合がございます。

令和元年

10月13日(日)

17:00開演
(16:30開場)

越谷市日本文化伝承の館 こしがや能楽堂

(埼玉県越谷市花田六丁目6番地1 電話 048-964-8700)

- 雨天決行(荒天時は中止する場合がございます。)
- 公演時間:約60分
- 本公演のチケットを購入されたお客様は、公演当日、日本庭園「花田苑」に無料でご入園いただけます。
- 前売券は250枚販売。当日券は100枚販売予定。(当日の天候により販売を中止する場合がございます。)

5月26日(日) チケット発売開始

入場料 全席自由 一般2,000円・学生1,000円
(消費税込) 能楽堂友の会会員・サンシティホールメンバーズは10%割引

お問い合わせ: サンシティホール ☎048-985-1112

※未就学児童の入場はお断り申し上げます。
 ※団体でのご購入の場合は、割引がございますので、ホールへお問い合わせください。
 ※お身体の不自由の方や車椅子をご利用の方はホールへお気軽にご相談ください。
 ※駐車場には限りがございますので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
 ※会場内は飲食はできません。
 ※能楽堂の「能舞台」及び「観覧席の一部」は屋外の施設となりますので、防寒及び暑さ対策にご留意ください。

主催: 公益財団法人越谷市施設管理公社

プレイガイド

- ◆サンシティホール.....048-985-1112
- ◆こしがや能楽堂.....048-964-8700
- ◆東武よみうりチケットセンター.....048-987-0553

◎チケットは、インターネットからもお申し込みいただけます。

<http://www.suncityhall.jp/>

サンシティホール

検索



本公演 の見所

今年創立55周年を迎えた日本音楽集団は1964年、東京オリンピックの年に誕生しました。それまであった流派による垣根を越え、新たな日本の音楽を作り続けて参りました。

このたびの公演では、耳馴染みのある皆さまご存知の日本のメロディを和楽器の音色に乗せてお楽しみいただきます。また、よりお楽しみいただけるよう、箏、三味線、琵琶、尺八、笛、太鼓に加え、箏篋と笙といった雅楽で使用される楽器も分かりやすくご紹介し、それぞれの古典の調べも併せてお聞きいただきます。日本の伝統音楽の音色に彩られた秋の夕にぜひお運び下さい。

日本音楽集団

日本音楽集団プロフィール

1964年、それまでの伝統的な邦楽の一線を越え、現代のスピード感、力強さをバネにし、誰にでも親しめる新しい邦楽のあり方を求め「日本音楽集団」が設立されました。

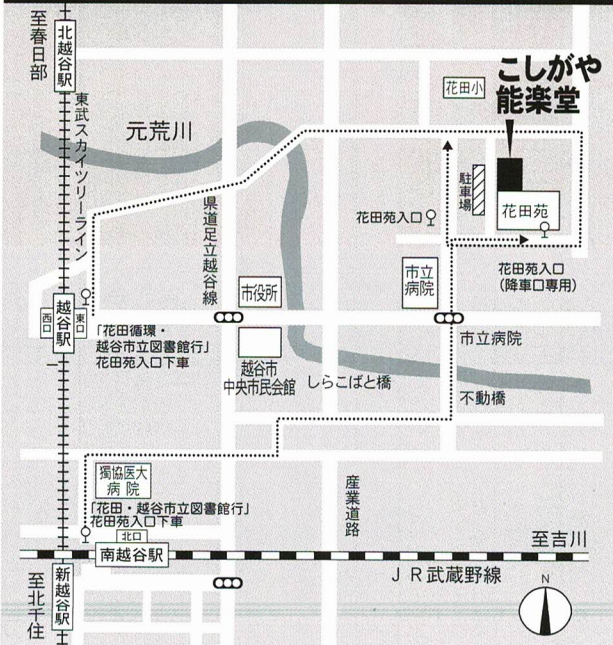
その音楽と活動は50年の時を経て、現在では年間3回の定期演奏会を中心に、全国各地での公演や学校での音楽鑑賞会、さらにはレコード、放送、映画、演劇等さまざまな分野で演奏活動を行なっています。

これまでにヨーロッパ、アメリカ、旧ソ連、中国、東南アジア、オーストラリア等、世界31カ国151におよぶ都市で公演を行ない、その中でアイザック・スターン、ヨー・ヨー・マヤゲヴァント・ハウス・オーケストラ、ニューヨーク・フィルとの共演を実現し、今までの邦楽とは一線を画した「日本音楽集団」に海外でも高い評価を得ています。

これらの活動に対して1967年芸術祭奨励賞、1970年芸術祭大賞、1971年芸術祭優秀賞、1978年第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞、1988年松尾芸能賞特別賞、1990年モービル音楽賞をそれぞれ受賞しています。

日本音楽集団の音楽、それは現代邦楽に新たな可能性を求め、その活力を21世紀に伝え続けています。

「こしがや能楽堂」案内図



● 駐車場には限りがありますので、ご来場の際は電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。
● 会場内は、飲食ができません。

邦楽器のご紹介

1 尺八 (しゃくはち)

竹で作られる縦笛で、紀元7世紀頃に雅楽の楽器として伝来しました。現在では真竹の根元を使い7つの節を含むように作り、一般的に前面に4つと背面に1つ、合計5つの手孔があります。標準的な長さは一尺八寸(約54.5cm)ですが、曲に合わせて様々な長さの尺八を使います。頭を上下に動かして音の高さを変えたり(首ふり)、ノイズ(雑音)を多く含んだ強い風のような音(むら息)を出すなど、多種の音色を使い自由自在に表現できるのが特徴です。虚無僧と呼ばれる僧侶が修行の道具として使っていた時代もありました。

2 横笛 (よこぶえ)

横に構えて吹く管楽器の総称で、龍笛、能管、篠笛などがあります。おもに雅楽で使われる龍笛は和楽器のさまざまな横笛の原型・祖先であると考えられていて、竹できていて7つの指穴があり「舞い立ち昇る龍の鳴き声」と例えられます。能管は能や歌舞伎、お囃子で使われ、やはり竹できていて7つの指孔があり、40cmほどの長さですが、西洋の音階はもちろん、日本のさまざまな音階とも異なる独特の音階を持っています。篠笛は篠竹で作る最も庶民的な笛で、祭囃子、歌舞伎、民謡など幅広い芸能で使われています。

3 三味線 (しゃみせん)

16世紀ころに当時の沖縄を経て大阪に伝わった中国の「三弦(サンシェン)」が、短い間に改良されてできたのが三味線です。和楽器の中では比較的新しい楽器ですが、長唄、地唄、常磐津、清元、新内、義太夫、津軽など、とても多くの種類があり、それぞれに特有の音楽で使われます。棹(ネック)の太さや動物の皮を張った胴の大きさはさまざまですが、どの三味線も三本の弦を撥で弾いて演奏します。「ピーン」という音を鳴らして音色に味をつけて響きを変化させる「さわり」というしくみが大きな特徴で、独特の音色を作っています。

4 琵琶 (びわ)

くだもののビワと似た形をした木製の胴に四本、または五本の弦を張り、扇を半分開いたような形をした大きめの撥で弾いて演奏します。古代ペルシャが起源で日本に伝わったのは7世紀ころで、伝来当時の琵琶は今も正倉院に宝物として保管されています。五弦琵琶、楽琵琶、平家琵琶、盲僧琵琶、薩摩琵琶、筑前琵琶など多くの種類があり、それぞれに特有の音楽があります。とても個性的な音色を持つ琵琶は現代音楽にも多く用いられ、特に1967年に武満徹が作曲したオーケストラと尺八・琵琶の作品「ノヴェンバーステップス」が有名です。

5 太鼓 (たいこ)

日本の太鼓や打楽器のことを「打ちもの」または「和太鼓」と言います。日本には多くの太鼓がありますが、大きく分けて皮がひもで締められているものと、皮が鉄でとめられているものに分けられます。ひもで締めるタイプの太鼓には、バチで打つ締め太鼓や桶胴太鼓、「ヨー」「イヤー」とかけ声をかけながら手で打つ小鼓(単に鼓とも呼ばれる)や大鼓があります。もっともよく知られているのは長胴太鼓(大太鼓、宮太鼓とも呼ばれる)という鉄打ちのタイプで、お祭りや神社などの行事でもよく使われます。

6 箏 (こと)

日本古来の「こと」は和琴(わごん・やまとごと)と呼ばれる6弦の琴ですが、現在よく使われているのは13本の弦を持つ箏(こと)です。箏は奈良時代ころに中国から伝わり雅楽の中で使われていましたが、その後僧侶の筑紫箏を経て、広く演奏されるようになりました。琴柱(ことじ)と言う山形のブリッジを動かして音の高さを決め、親指、人差し指、中指につけた爪と言うピックで弾いて音を鳴らします。現在では音域によって13弦、17弦、20弦など様々な大きさの箏が使われています。その形は龍になぞらえられ、箏の部分を「龍頭」「龍尾」などの名称で呼びます。

7 笙 (しょう)

西洋のパイプオルガンの起源となった楽器と言われており、匏(ほう)と呼ばれる部分の上に17本の細い竹管を円形に配置し、竹管に空けられた指穴を押さえ、匏の横側に空けられた吹口より息を吸ったり吐いたりして、17本のうち15本の竹管の下部に付けられた金属製の簧(した:リード)を振動させて音を出します。天から差し込む光を表すと言われていました。

8 箏篋 (ひちりき)

漆を塗った竹の管で作られ、表側に7つ、裏側に2つの孔(あな)を持つ縦笛です。発音体にはダブルリードのような形状をした葦舌(した)を用います。地に在る人の声を表すと言われていました。